

年頭法話

西證寺 住職 尾崎貞良

新年明けましておめでとうございます。令和6年が始まりました。「一年の計は元日にあり」と言われます。一年の始まりに今年起こりそうな出来事を予測し、不都合なく暮らしていきたいと願い、色々な希望や期待をもって一年間の計画や予定を立てることです。

最近テレビを見ておりますと「死んだらしまい」と言うことをよく聞きます。死んだ先のことが見えない、わからない。だから何も無い仕舞だど。「死んだら仕舞」という人生は、生きている今がもう既に「しまい」「仕舞」に向かって。終わりに向かって。滅びに向かつて生きるだけ。何をやっても空しいかと思えます。一生懸命生きれば生きるほど死の崖。ぶちに向かつて全速力で走って行く様な人生、誠に恐ろしいことです。



私達に死んだ先の事が見えないから、わからないから無いという簡単な考えであらうかと思えます。しかし、私達人間には考える力を頂いています。犬や猫・牛や豚にはその能力は与えられていません。人間以外の動物は、この世に生まれて本能のままに食べて育ち、時期が来れば繁殖をし、自分の遺伝子を子に伝えて死んで行くだけです。私の命を考へても解るかと思えます。我々は人間として生まれ育てきました。この地球に人間しかいなければ、人間に生まれて当たり前ですが、この地球には犬や猫・牛や豚、人間に見つかったら叩き殺される蚊やゴキブリや多くの命があります。みな動物です。しかも、犬や猫、牛や豚は哺乳類。我々人間も特別ないのちではありません。猿から進化してきた動物です。そして、お母さんのおっぱいを飲んで育てて頂いた同じ哺乳類です。

その多くある命の中で人間と生まれ出会うて来た。これは、私がこの地球の事がわかって、人間を選び、両親を選び、男や女を選んで親子となり兄弟姉妹となつて出会ったことではありません。気付いた時にはもう既に、父・母の遺伝子を頂き、お母さんが身の裂ける痛い思いをして産み育て、親子となり兄弟姉妹となつて出会っていました。私の力を一切かけることは出来ませ

島上南組
だより

浄土真宗本願寺派

2024年(令和6年)1月

第19号

編集・発行

高槻市野田正覚寺内

島上南組実践運動委員会

組長ごあいさつ 島上南組 組長 本田一成

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

例年以上に暑く長い夏をようやく乗り越えたと思ったら急に寒くなり、気付けばもう新年を迎えています。時の流れの早さを感じます。皆さまお変わりありませんでしょうか。



さて、今回も新聞の投書欄からのご紹介です。

半世紀以上前のことです。小学2年生の私たちは教室の机で静かに給食を食べていました。突然、一番前の席にいたS君が立ち上がり、後ろの窓へと歩き始めました。寡黙なS君は真っ赤な顔でうつぶわいています。みな何事かと立ち上がり窓の外を見ました。教室は校舎の1階。窓の下、中庭に3歳か4歳くらいの女の子がいました。S君は自分の給食のコッパンを半分ちぎって、その子に渡しました。

その瞬間、私たちは理解しました。1人で留守番の幼い妹が、給食をもらいにお兄さんの元へ歩いて来たのだと。

ん。見えないところで多くの命が、多くの願いが私にかけられてこまで来れました。私の計らいを超えた世界から計らわれていました。それを不可思議と言います。思議とは私たちが思い計らうこと。不可とはできないこと。有るとか無いとか、良いとか悪いとか、私の認識・判断を超えた世界から、私のことを心にかけて願いをかけて計らわれて来ました。それは有難く受け入れていく他ありません。

その見えない世界が見えてきた時、阿弥陀仏の限らない命の願いと救いを聞き喜び、「南無阿弥陀仏」この阿弥陀が限らない命の親となつて、いつでもどこでも立ち上がつて迎え取り極い取つているよ。安心して任せよ。」と、念佛をもつて言葉となつて呼びかけてくださいます。言葉も形がありません。見たり触つたり出来ません。だからこそ無くなる事が無い。形のあるものは、移り変わっていく中で、増えたり減つたり壊れ無くなつていきます。そんな無くなつていく形に表すことなく、私が何をしても称えられるように、喜び安心できるように「なんまんだぶつ」。幼い頃気付いた時にはもうすでに、「お父ちゃん、お母ちゃん」と親を呼んで安心して育つてきたように、御恩報尽の「なんまんだぶつ」。

しかし、現代の多くの人は迷つておられると思います。お正月には初詣で神社に参り、神様に手を合わせ、氏子となつて祈願をし、知り合いが亡くなると念珠を持つて手を合わせ仏教徒となり、12月にはジングルベルと歌い、ケーキを食べて「きよしこの夜」とキリスト教徒になる。何を支えにどこに向かつて生き、どこで先に亡くなった父母や先祖と会えるのか。残して行く子や孫とどこで会えるのか。体が一つ・命も一つ。一つの世界にしか行けません。それを二つも三つも選べば、どこへ行こうか迷います。迷いの先は地獄です。何を信仰してもよい自由は憲法で保障されています。逆に多く選びすぎて迷う自由もあることを忘れてはいけません。

私達のご先祖は阿弥陀仏の易しい「念仏の救い」を選び、お伝え頂きました。祈つて願つて行くのではありません。難しい修行をやり切つて行くのでもありません。いかなる修行をやりきることもできない私を見抜いて、私の祈り・願いを待つて救うのではなく、阿弥陀仏の方より迎え取り、命終つたその時が阿弥陀仏の救いの世界「極楽究極の楽土」に仏となつて行き生まれる(往生成仏)。私がこの世で親から願われ出会つたように。帰つて行く会える世界がある。任せきつた安心の世界へ。

私たちはS君のお父さんが炭鉱の閉山で遠くに行き、お母さんも日中働いていることを知っていました。担任の先生は余つていたパンをS君に手渡し、女の子はにっこり笑つて帰つていきました。S君がパンを渡したのは、この1回だけでした。S君はどうしているでしょう。今も学校給食がその日の唯一のまともな食事という子どもがいます日本は豊かになつたのでしょうか。(2023年8月26日 朝日新聞)

一見、生活が豊かになつたように見える日本でも、貧困問題を抱える家庭がたくさんあります。

島上南組では昨年、実践運動の一環として大阪教区が奨める『ほっとけ米プロジェクト』(門信徒や地域の方々から支援米(1人1合)を持ち寄つていただき、これを支援団体を通して貧困問題を抱える家庭などに届けるという活動)に取り組みました。この組報が発行される頃には、皆さまから寄せられたお米は、皆さまの想いとともに対象となるご家庭に届いていることと思えます。この活動に賛同いただきご協力いただきました皆さま、どうもありがとうございます。

やさしさに であつたら

よろこびを 分けてあげよう

しあわせと おもつたら

ほほえみを かわしていこう

仏教賛歌『やさしさにであつたら』

一人でも多くの子どもたちの笑顔が見られる年となりますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

台掌

地域探訪 大冠地区 忠魂碑

春日町・西教寺 前任職 堀川憲慧

この度、大冠忠魂奉賛会が主催となり営まれて来た追悼法要は、令和5年9月の秋彼岸の追悼法要をもって終了となり、忠魂碑も撤去されてしまいました。忠魂碑は昭和3年9月に建立されてより95年の間、大冠地域の移り変わりを見守って来ました。当初は大冠農協の地に建立されていましたが、その後春日神社境内の鳥居の北側、路ぞいに移築され、さらに道路の拡幅にともなう昭和52年3月に春日神社境内の南側、現在の場所に移設されました。

忠魂碑は、日清戦争・日露戦争・第二次世界大戦などの戦争に召集されて戦死なされた、大冠地域出身の兵士の記念碑であります。大冠農協（JA）にて保管の『英霊名簿』に記載されている人数は合計92名であります。実際にはこの人数よりも多いと思われる。また国家のため召集されて戦死なされた方々を偲んで追悼法要を始めたのは、記憶が曖昧であります。昭和31年から昭和37年頃かと思われ、追悼法要は毎年秋彼岸につとめられ、ご遺族の方々及各村落より参集し参拝されてきましたが、参拝される遺族の方は年々少なくなり、また法要は大冠地域内の真宗寺院住職11名が「三奉請」「阿弥陀経」を誦読してお勤めされました。なお、大冠忠魂奉賛会はJAの組織ではなく、JAの受託組織でもありません。経緯は不明ですがJAの組合長であった磯村義一さんが事務局としての役割を引き受け、そのまま歴代のJA大冠支店長が引き継いできたと思われ。

ひと昔前の世界情勢では、各国がそれぞれに富国強兵を図って弱小の国家を植民地となし、富を搾取して自国を豊かにしてきた歴史がある。

総代会より 研修会の再開

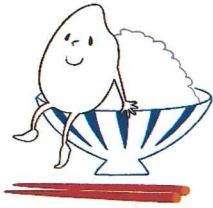
総代会 会長 玉村圭二

新型コロナ禍のため約3年間行事を中止していましたが、令和5年度から感染に注意しながら実施できる行事から行うことにしました。研修会の課題である「み教えと歩む」を始めてから7年も経ち、会員も入れ替わっていることから「浄土真宗の門信徒は、これだけは学び知っておきたいこと」を新たな課題として研修会を再開しました。

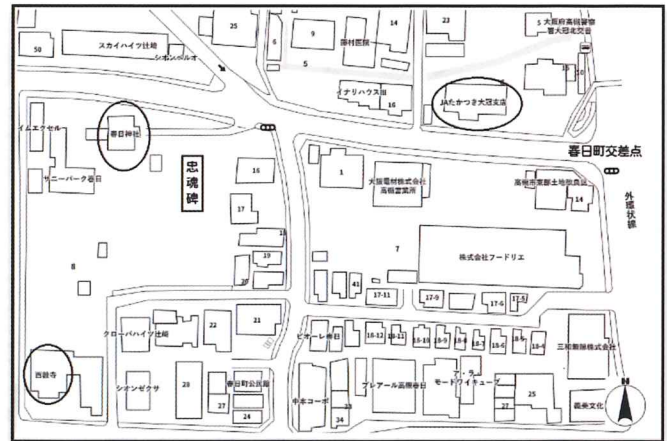


本年度第1回研修会は7月22日（土）に道鶴町円正寺で開催しました。39名の参加があり、講師は各寺の順に2名の住職様にテキスト「み教えと歩む」の最初から分かりやすく話していただきました。今年度はあと2回を予定しています。

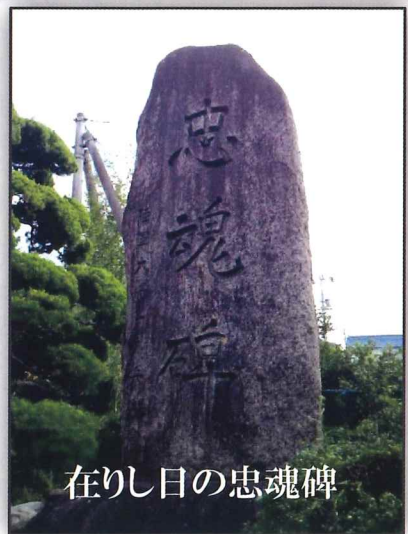
ほっとけ米プロジェクト
ほっとけ米は皆さまのご協力により320kg 集まりました。これを350個に小分けして届けました。
於、正覚寺 2023/12/12 の作業の様子です。



ります。現在でも各国の元首は、世界の平和を願いながらも新兵器の開発に余念がありません。現在はまさに平和と戦争の狭間にあり、善良で平穩なる一般の人々が戦争の犠牲となっております。また思想や信条の違いによつて争いが起こっています。ひとり一人が平和と安穩を願つて、お互いが慎みと思ひ遣りのある豊かな人生を過ごしたいものです。



忠魂碑関連地図



在りし日の忠魂碑



撤去作業

仏教婦人会より

仏教婦人会 書記 辻崎富士子

コロナ禍で延期になり再度計画しては、また延期で不安になりましたが、やっと9月28日に第24回島上南組仏教婦人会物故者追悼法要を無事終えることができました。また秋の気配もなく暑い中、ご遺族様にお越し頂き有り難うございました。そして寺族仏婦、若婦の皆さまのご協力のもと、尊重寺さんに場所をお借りし、心に残る法要となりました。何度も練習されたハンドベルの演奏やコーラスがとても印象に残りました。最後の「きつとまた会えるね」を聞き涙ぐむ人もおられたそうです。また、ご法話を頂いた赤井智頭師の「なき方を偲ぶ」ということは、ユーモアを交えながら良いお話でした。依頼しては延期を繰り返しながらも快く引き受けて下さり有り難い限りです。大事な行事を終え、役員一同感謝しております。今後ともお導きのほど宜しくお願い申し上げます。合掌

